

JCA総合保障制度加入者の事故報告

増えつづける傷害事故！

昭和58年1月1日から12月31日までのJCA総合保障制度の事故発生状況および加入状況の集計ができましたのでお知らせします。

ここ1～2年の傾向として、「加入者数の減少」「事故発生件数の増加」という好ましくない結果がでています。

昨年1年間の事故発生件数をみると、発生件数は109件で、これは前年度（昭和57年度）より24件の増加、増加率22%。前々年度（昭和56年度）より56件の増加、増加率51%となっています。このようにサイクリストの事故は、昭和56年度53件だったものが、昭和58年度には109件と短期間に2倍以上急増したことになります。

加入状況についてみると、傷害保障の部では、約14,000人、加入口数約25,000口で、これは前年度（昭和57年度）より約2,000人減少、減少率12%。前々年度（昭和56年度）より約4,600人減少、減少率33%。加入口数では、前年度（昭和57年度）より約5,000口減少、減少率20%と加入口数も減少しています。賠償保障の部では、Aタイプが約2,000人、Bタイプが約3,300人。これはAタイプの場合前年度より約500人、減少率25%。Bタイプの場合は約200人、減少率6%となり、このように加入状況は、すべての面で減少傾向がみられます。JCAは、サイクリストを保護する立場から、この総合保障制度を実施したわけですが、ここに掲載した事故件数は、保障制度加入者だけのもので、氷山の一角にすぎず、会員でありながら加入していない人、非会員

の事故を含めると相当数に上るものと思われます。各都道府県協会・各都道府県のお早ようサイクリング指導者およびJCA指導者の方々は、この制度の主旨を理解の上、もっと多くのサイクリストに加入を勧めて下さい。

次に主な事故実例を御紹介します。

1. 事故日：58年4月27日（群馬県）
国道沿いの側道直進中、自転車の側面より自動車と接触し転倒（64万円）
2. 事故日：58年7月3日（東京都）
サイクリング部、定期戦レース中、崖に衝突自損、打撲骨折（21万円）
3. 事故日：58年7月9日（香川県）
フロント・キャリアに乗せていた荷物が車輪にからまり前方に転倒、顔面挫傷（31万円）
4. 事故日：58年10月15日（香川県）
国道走行中、軽四輪トラックの幌にひっかかり転倒、頭部打撲（12万円）
5. 事故日：58年9月18日（大阪府）
サイクリング中オートバイと接触、頭部挫傷、鎖肩骨折（10万円）
6. 事故日：58年11月3日（福岡県）
車道走行中歩道にのりそこね転倒、大腿骨骨折（64万円）
7. 事故日：58年12月18日（香川県）
道路の氷にのりあげ転倒、肩胛骨損傷左足首打撲（12万円）
8. 事故日：58年10月6日（群馬県）（賠償）
前方の自転車にあわせ進路変更時、走行者に接触、尾底骨骨折（80万円）

昭和58年度

自転車(スポーツ車)に対する利用者の意識調査

保有するスポーツ車はツーリング車が大半(83%)

昭和58年度の「自転車(スポーツ車)に対する利用者の意識調査」がまとまりましたので、その一部を紹介します。

今年度の意識調査は、前年度(昭和57年度)の首都圏における意識調査と同様、一般消費者の中からスポーツ車を保有し、しかも多角的に利用していると思われる青少年層(中学生以上10代の男子)を対象に、大阪圏で同じ趣旨により実施し、報告書は、首都圏調査と比較しながらまとめました。

主な調査内容は、

1. 車種別保有状況
2. 過去3年間の購入状況および今後1～2年の購入予定状況
3. 既購入者および購入予定者の購入先と購入先決定における考慮事項
4. 点検・整備および修理状況の実態
5. 自転車に関する表示(マーク)の知名度
6. 利用したいアフターサービス
7. 休日の屋外での活動度合
8. 休日の過ごし方のパターンとその満足度
9. サイクリングへの関心度

となっていますが、さらに今年度新たに追加した主な調査内容としては、「スポーツ車のイメージ」として販売店の形態種類(自転車店、スーパー等量販店、デパート)によってスポーツ車のイメージがどのように異なっているのか、性能・価格・品質の3つに分けて調べてみました。

では本調査の概略を説明することにします。

(注) 標本数800中、回収数663(82.9%)、回答不能数137(17.1%)で、調査方法は面接聴取法で行ないました。

I. スポーツ車関係

自分の専用自転車を持っている人は86%で、「ミニサイクル」(26%)と「軽快車」(25%)が共に4分の1を占めています。スポーツ車は「ドロップハンドル式スポーツ車(セミド

ロップハンドル式は除く)」と「その他のスポーツ車」がいずれも18%となっています。

前回の首都圏調査と比較すると、大阪圏では、「ドロップハンドル式スポーツ車」の保有率が低く、「軽快車」の割合の高いのが目立っています。学齢別(注：学齢別とは、中学・高校・大学・有職者別のことをいう)では、学齢が低い程、専用自転車の保有率も高く、中学生では91%におよび、「その他のスポーツ車」の割合も高くなっています。

ドロップハンドル式スポーツ車のうち、「レーシングタイプ」は17%と少なく、大半(83%)は「ツーリングタイプ」となっています。

過去3年間のスポーツ車の購入経験を持つ人は27%におよび、これは首都圏(36%)より低く、学齢の低い人程購入率は高く、中学生では3割を超えている(32%)。

購入先としては、「自転車店」が88%で集中しています。首都圏では「自転車店」が79%であったので、大阪圏の方が、自転車店への集中傾向が強くみられる。

スポーツ車の購入先決定に、対象者の意向が「入っている」割合は78%で、これは首都圏調査結果(79%)と違いはない。

購入先決定要因としては、「購入先が家の近くにあった」ことが際立って多く、過半数の人があげています。次いで「価格が他の店より安かった」28%、「展示している自転車の種類が豊富であった」27%、「お店の人の応対が親切で印象がよかった」26%、「友人や知人の評判がよかった」23%と続いています。首都圏調査と比べると、「店の人のサイクリングやスポーツ車への知識や情報が豊富であった」が、首都圏では22%、6位であったものが、大阪圏では9%、8位と差がみられる。他はあまり大きな違いはありません。

今後1～2年のスポーツ車の購入意向は、「買いたい」人は13%で、首都圏調査(17%)

に比べやや少なく、学齢別では、中学生の購入意向が19%と高いのが目につきます。

購入先としては、94%と大部分の人が「自転車店」を考慮しており、首都圏調査(86%)と比べ「自転車店」への集中度合がやや多くみられます。

スポーツ車のタイプ別意向としては、「ツーリングタイプ」が63%で特に多く、「レーシングタイプ」24%、「その他のスポーツ車」13%の順となっています。

販売店の種類によるスポーツ車のイメージとしては、「自転車店」は性能で50%、品質で67%の人が「良い」としており、スーパー等量販店やデパートに比べて高い評価を受けています。スーパー等量販店とデパートとの比較では、スーパー等量販店の評価がさらに低く、品質、性能とも「良い」は数パーセントに過ぎないのに対し、「良くない」が30%前後を占めているが、一方、価格については、「高い」とする人は自転車店では36%、デパートでは29%を占め、スーパー等量販店で6%低く、ほぼ半数の人が「安い」としている。安さの量販店というイメージは際立って強いものがあります。

II. サイクリング関係

サイクリングをする回数は、「年に1~4回ぐらい」が22%で最も多く、「月に1回ぐらい」13%、「週に1回ぐらい」10%となっており、多少ともサイクリングをする人は45%に及び、首都圏と比べるとサイクリングをする人は大阪圏の方が少なくなっています。

サイクリングをしない理由は、「サイクリング等に興味がないから」が44%で最も多い。

サイクリングをする場合の走り方としては、「景色や名所など観光しながらのんびり走りたい」という人が45%で多く、「かなり速いスピードで快走したい」という人(34%)を上回っている。

以上、調査結果の概略を説明しましたが、詳しく知りたい方は、各都道府県協会に1冊づつ配布してありますので御参照下さい。

第20回 東北サイクリングラリー

こけしのふるさと鳴子を中心に開催

第20回東北サイクリングラリーが、8月25日(土)~26日(日)に歴史と文化に彩られたササニシキのふるさと大崎耕土、いで湯とこけしのふるさと鳴子を中心に、雄大な大自然と文化に恵まれた宮城県で開催されますので、参加希望者は所属協会へ参加料を添えて7月10日までに申し込んで下さい。

定員：450名

参加料：JCA会員8,500円、一般10,000円

開会式：鳴子ホテル

閉会式：城山公園

日程：

第1日 8:00~11:00 受付

8:30~11:00 実走開始(フリーラン)

18:00~20:00 開会式・交歓会

第2日 8:00~9:00 実走開始(フリーラン)

14:30~15:00 閉会式・解散

コース：

(第1日)古川市総合体育館~中新田(バッドハホール・酒蔵訪問)~岩出山(有備館視賞)→鳴子(日本こけし館・鳴子峡探勝)~鳴子ホテル 約48km

(第2日)鳴子~花山湖~岩出山 約57km

問い合わせ先：宮城県サイクリング協会

〒880 仙台市錦町2-5-1

(株)自転車総合研究所内

TEL. 0222-25-2995

クラブ紹介

三重県・清菅老人サイクリングクラブ

松坂市菅生町のお年寄りで結成している清菅老人サイクリングクラブ(野中長七会長、会員20名)では、「体力を向上させ親ぼくを深めよう」と毎月1回1日ばかりで史跡めぐりサイクリングを行なっている。

同クラブは昨年6月に発足、会員の中には80才のお年寄りもあり、全員意気さかん。今年は6人の女性会員も含めて、伊勢市までも足を伸ばす予定だという。

'84 インターナショナル オホーツクサイクリング

'84インターナショナル・オホーツクサイクリングが、7月14日(土)～15日(日)(雨天決行)に昨年と同じくオホーツク海に面した雄武町から斜里町までの203.6kmのコースで開催されますのでご参加下さい。

定員: 1,000名(定員になり次第締切)
参加費: 8,000円(13日の寝具代及び14～15日の5食分の食事代等)

資格: 自己の責任でサイクリングができる方。小中学生は、必ず成人のリーダー1名以上を同伴すること。

申し込み及び問い合わせ

オホーツクサイクリング実行委員会
〒093 網走市北7条西3丁目
北海道網走支庁内

TEL. 0152-44-7171(内線591・592)

なお、この大会に参加される方の便宜を計るため、札幌からバスによるツアーが発表されていますので参加される方はご利用下さい。

問い合わせ:

道新観光 TEL. 011-241-6401

〒060 札幌市中央区大通西3丁目道新ビル

第9回 女性サイクリストの集い 樺の島(伊豆大島)一周サイクリング

JCAの主催、東京協会主管の第9回・女性サイクリストの集いが、樺で有名な伊豆大島で6月1日(金)～3日(日)の2泊3日〔船中1泊〕で開催されます。

参加資格は女性サイクリスト、同伴者、各県協会の引率するリーダーで、現地にはレンタサイクルもありますので、ふるってご参加下さい。

参加費: 15,000円(船代、宿泊、食事〔5食〕バス、記念品、保険料など)

募集人員: 50名(定員になり次第締切)

日程:

6月1日 20:00～21:00 竹芝桟橋集合

22:00～ 出帆

6月2日 5:00～ 大島着、島内一周サイクリング(約51km)

6月3日 朝食後三原山登山

14:00～ 出帆

19:50 竹芝桟橋着

申込先: 東京サイクリング協会

〒110 台東区上野3-8-8

TEL. 03-833-3969

東京協会
で参加者
を募集

カナディアンロッキー・ サイクリングツアー

東京協会では過去5回にわたりカナディアンロッキーの素晴らしい大自然の中でサイクリングを楽しんできました。目をみはる岩峰と雄大な氷雪の山々、清冽な流れと、深い緑の原生林、その中をつきぬけるアイスフィールドパークウェイ。カナディアンロッキーはサイクリストにとって最高の別天地といえます。

今回はヨーホー国立公園をコースに入れ、伴走の車もつきますので、身軽に走れますし、初めて参加の人でも安心です。

期間: 8月5日(日)～12日(日)

費用: 438,000円(全朝食付)

定員: 20名

締切: 6月30日

日程:

8月5日 東京(夕方)～バンクーバー

8月6日 フィールド～ヨーホー国立公園をサイクリング(20km)

8月7日 フィールド～レイクルイズヘサイクリング(40km)

8月8日 ロッキーの大景観を楽しみながらサイクリング(60km)

8月9日 バンフ国立公園に入りボウ河沿いにサイクリング(60km)

8月10日 バンフ～バンクーバー

8月11日 バンクーバーより東京へ(12日)

問い合わせ・申し込みは下記へ

東京サイクリスト・ロータリークラブ

TEL. 03-833-3969